

11月24日(土)午前9時30分リトリートたくら出発、林道大平谷(約4km)まで軽トラに分乗して登る。大平谷林道はススキ類の雑草に覆われ、所々土砂が流出して凸凹道だ。赤谷川上流で軽トラ下車、10時スギの植生林を登り尾根を目指す。尾根に近づくとブナ、ミズナラの散開林になる。この辺は面谷さんの炭窯領域だったという。すでに放置された二次林だ。尾根伝いに榎谷境を西へ、この辺から北東にアカタン、部子山、金草山、高倉谷峠が一望できる。北斜面にはブナ林が目立つ。南方向は見通せない。今庄境交点(754m)から150m大鶴目谷側の頂上で昼食。午後大平谷山径(みち)の草刈り組み(伊藤、臼谷、辻、上木)と大鶴目谷踏破組(権八、歌門、大塚、雁子、廣部、野村、田中)に分かれる。今庄境交点より古木山方向200mの尾根から雑木を分けながら西に下る。このあたりも放棄された二次林だ。まもなくカベに遭遇、急斜面を這うように迂回し、神秘的な隠れ滝を発見、水源を確認し沢を下るがまたカベに、結局3箇所のカベを克服してようやく官行造林山径にたどり着く。途中炭窯跡があった。ここからは植林地だ。スギ林にトチの巨木をまばらに残してある。根本にヤマランが生えている。大鶴目林道に午後3時到着、草刈り組みの3人が迎えに来ていた。このルートはプロでも厄介なところだ。今度は大鶴目谷官公林道から古木山を目指す新たなルートを探し、踏破したい。(撮影:記録11.27/田中保士)

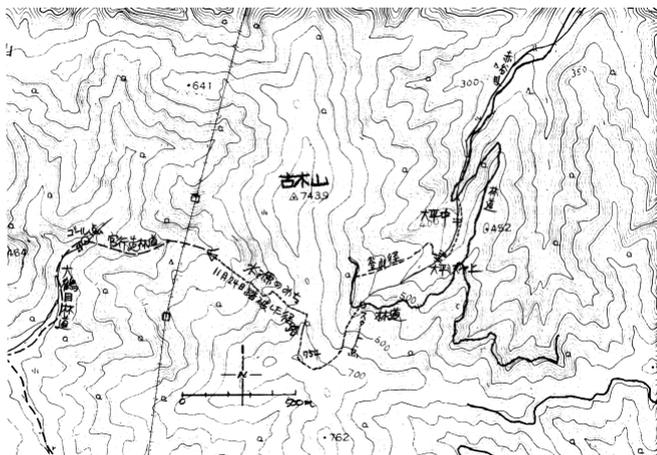


ブナの巨木に一服する。径案内の権八さん。根本にヤマラン。頂上で慎重にミールディング。カベ(岩壁)を迂回しながら下る。

水環境と歴史的砂防施設を活用した地域づくり
アカタン 大鶴目谷砂防回廊
 《水源のみち》踏破記録 2007/11/24



左にアカタン、正面左に部子山、右に金草山と高倉峠を一望、高倉谷の伊藤武男さん踏破組みは、26日この峠を目指す。
 アカタン大平谷から大鶴目谷への踏破ルートマップ



踏破を終えて大鶴目林道を「一本歩くと「シヤミ堰堤」に着く。この夏野村義一さん夫妻が、3ヶ月かけて掃除した。土砂や草が取り除かれ、当時の姿に蘇った